



第 1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。</p> <p>日本語教育方法論演習Ⅰで学んだことを振り返り、その知識を実践につなげるためのアウトプットを行う。</p>
第 2 回	<p>外国人との共生社会の実現に向けた取組・施策</p> <p>外国人や日本語教育を取り巻く社会状況や、国や地方公共団体の日本語教育に関する取組を知る。</p> <p>在留管理制度および多様化する日本語学習者（潜在的学習者）の背景を学ぶ。</p>
第 3 回	<p>日本語学習者の現状と取り巻く環境（1）</p> <p>国内で暮らす「生活者」「留学生」「就労者」の背景や現状について事例を通して理解を深める。</p> <p>それぞれの日本語学習ニーズや日本語教育のカリキュラムやシラバス、教材等について考える。</p>
第 4 回	<p>日本語学習者の現状と取り巻く環境（2）</p> <p>国内で暮らす「日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒」「学齢超過の外国にルーツを持つ若者」などの背景や現状について事例を通して理解を深める。</p> <p>それぞれの日本語学習ニーズや日本語教育のカリキュラムやシラバス、教材等について、成人学習者との違いを通して検討する。</p>
第 5 回	<p>日本語学習者の現状と取り巻く環境（3）</p> <p>「ハイレベルな教育」「ダブルリミテッド/シングル・リミテッド」「風船説/冰山説」「BICS/CALP」などをキーワードに、言語発達や言語習得の基礎知識を学ぶ。</p>
第 6 回	<p>日本語教育プログラム</p> <p>数種類の教材（教科書・オンライン教材・動画等）について、それぞれの特徴やシラバスを比較検討する。</p> <p>「日本語教育の参照枠」「can-do」「文型中心(文型積み上げ)/行動中心アプローチ」の考え方を理解する。</p>
第 7 回	<p>日本語の授業を見てみよう【オンデマンド】（1）</p> <p>日本語の授業動画（第 6 回目の授業で提示する）をひとつ選んで視聴する。</p> <p>日本語教師のティーチャートークや説明の工夫、その他授業で気づいた点を書き起こして分析する。</p>
第 8 回	<p>マイクロティーチング（1）</p> <p>授業担当者は、少人数・短時間で模擬授業を行う（第 7 回目で見た授業を再現）。</p> <p>生徒役の学生は、ティーチャートークや説明、ジェスチャー、板書、教材や教具の使用などについてしっかりと準備・練習ができているか評価する。</p> <p>発表後は、セルフレビュー・ピアレビューを行い、次回の実践に活かせるようにする。</p>
第 9 回	<p>マイクロティーチング（2）</p> <p>前回のマイクロティーチングを改善し、さらに自らの工夫を加えた模擬授業を行う（第 8 回目よりも模擬授業時間枠を拡大）</p> <p>生徒役の学生は、ティーチャートークや説明、ジェスチャー、板書、教材や教具の使用などについてしっかりと準備・練習ができているか評価する。</p> <p>発表後は、セルフレビュー・ピアレビューを行うほか、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第 10 回	<p>日本語の授業を見てみよう【オンデマンド】（2）</p> <p>日本語の授業動画（第 9 回目の授業で提示する）を視聴する。</p>

	日本語教師のティーチャートークや説明の工夫、その他授業で気づいた点を書き起こして分析する。
第 11 回	<p>模擬授業（１）</p> <p>授業担当者（グループ１）が、それぞれが作成した教案に沿って模擬授業を行う。</p> <p>学習者役の学生（グループ２）は、学習者のミスとエラーを意識しながら学習者役になりきる。</p> <p>終了後は、セルフレビュー、ピアレビューを行い、今後の実践に活かせるようにする。</p>
第 12 回	<p>模擬授業（２）</p> <p>授業担当者（グループ２）が、それぞれが作成した教案に沿って模擬授業を行う。</p> <p>学習者役の学生（グループ１）は、学習者のミスとエラーを意識しながら学習者役になりきる。</p> <p>終了後は、セルフレビュー、ピアレビューを行い、今後の実践に活かせるようにする。</p>
第 13 回	<p>日本語教育のキャリア</p> <p>日本語教育の専門職としての進路や、日本語教育の知識や技術を生かした活動機会について考え、それぞれの将来につながる選択肢のイメージを広げる。</p>
第 14 回	<p>発表（模擬授業）</p> <p>テーマに基づいて模擬授業を行う。</p>
第 15 回	<p>まとめ</p> <p>後期で学んだことの振り返りを行い、次年度の教育実習に向けた新たな気づきを得る。</p>
テキスト	授業開始後に指示する
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>スリーエーネットワーク(2012)『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊』スリーエーネットワーク</p> <p>嶋田和子監 できる日本語開発プロジェクト著 (2011)『できる日本語 初級 本冊』アルク</p> <p>独立行政法人国際交流基金 編著 (2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門A1 かつどう』三修社</p> <p>森篤嗣(2022)『超基礎日本語教育』くろしお出版</p> <p>小林ミナ(2019)『日本語教育よくわかる教授法』アルク</p> <p>鎌田修, 川口義一, 鈴木睦編著(2006)『日本語教授法ワークショップ DVD』凡人社</p>
課題に対するフィードバックの方法	随時ふりかえりの時間を設けるほか、必要に応じて個別フィードバックを行います。
学生へのメッセージ・コメント	<p>1. 今までに学んだ日本語教育に関する知識を実際に運用してみる授業です。</p> <p>2. 授業を通して、日本語を教えることはもちろん、日本語教育・教師・学習者に関する気づきを深め、日本語教育専門職という視点から多文化共生につながる理解を深めてほしいと思います。</p>

